

yomoyomo 2019

図書委員会だより「yomoyomo」第75号 2019年6月 岸産高図書委員会

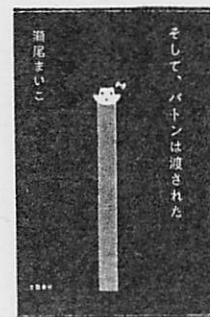
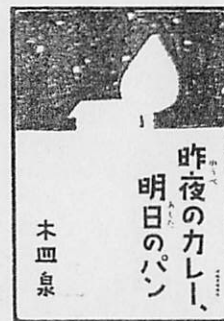
『ブラタモリ3』

NHK「ブラタモリ」制作班/角川書店

NHK総合テレビで放映中の散歩番組の最高峰「ブラタモリ」を書籍化したものです。タモリが古地図を手に日本各地を散策し、現代の街並みに残る「歴史の跡」を発見していきます。例えば、世界遺産もあり、多くの観光客が訪れる奈良。私は大学時代の4年間を奈良で過ごしました。古くから栄えた奈良の発展に大きく影響を及ぼしたのは、なんと「段差」でした。何故でしょう？

このように旅好きのあなたに、ほんのちょっぴりスパイスを与えてくれる「為になる」本がブラタモリシリーズです。よろしければ是非。

理科担当 小田涼平先生



■「yomoyomo」は、各ホームの図書委員が図書館所蔵の本の中からオススメ本をレビュー形式で紹介します。今号は三年生が担当しました。また先生からのオススメの一冊も必見です。

『かがみの孤城』

辻村深月/ポプラ社

学校での居場所をなくし、閉じこもっていた少女「こころ」の目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けると、そこにあったのは城のような不思議な建物。そこにはちょうど「こころ」と境遇の似た7人が集められていた——。最後にすべての謎が解けて、目くるめく驚きと感動の嵐です。終盤である大惨事が起こりますが、そこで「こころ」が城の仲間一人に投げかけた言葉に、きっと皆さんも心を動かされると思います。大人になる前、学生のうちに是非読んでほしい作品です。

6H

『百貨の魔法』

村山早紀/ポプラ社

「百貨の魔法」は昭和に時代に創業した、とある小さな百貨店を舞台にした、ささやかな奇跡と魔法の物語です。特別な人々ではなく、人生のどこかで出会ってきたような、あるいは自分がそうだったような、そんな人たちの過去や現在、そしてこの先の未来について描かれた話です。

私はこの本を読んで、百貨店に対するイメージが変わりました。嬉しさ、切なさ、懐かしさと、いろいろな感情にあふれた作品だと思います。また、この作品の前に発表された『桜風堂ものがたり』は舞台が同じで、姉妹作となっています。気になった方は是非両方を読んでみて下さい。

7H

『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ/文藝春秋

5人の父と母がいる17歳の女の子優子。父も母もどんどん変わっていき、名字も変わり、生活が変わっていくという複雑な家庭環境で育ってきた彼女と、周囲の人々の愛が描かれている話です。個性の強い何人もの親にずっと振り回され、性格が歪んでしまってもおかしくない状況でも、現実を受けとめ続けた優子。そしてそんな優子の芯の強さに、自分の生き方を考え直すきっかけを与えられる義父の森宮。「広い心で、自分の考え方や捉え方ひとつですべてが変わる」と考える優子の姿に私も励まされ、心が温かくなりました。皆さんにも「家族とは何なのか」「親子とは何なのか」、この本を読んで考え、新しい発見をしてほしいです。

4H

<2019年本屋大賞>受賞作!!



『ひと』

小野寺史宣/祥伝社

生きにくい世の中を、これから「ひと」はどのように生きていけばよいのか？両親の死という大きな悲しみを経験した主人公は、「ひと」の優しさに助けられ、明日への希望を見出す——。この本を読んで、優しい「ひと」と出会えるのは、「ひと」の生き方がすばらしいからだと感じました。

「ひと」より特別優れていなくても、しっかりと生きていけば、そこには生きる意味も楽しみもどんどん生まれてくる。平凡な人生でも全く問題ない。たった一度の人生をしっかりと生きていけばよい。そんな勇気と希望を与えてくれる一冊。今年の本屋大賞第2位を獲得した平成最後の傑作です。

2H

『ペンギン・ハイウェイ』

森見登美彦/角川書店

「ペンギン・ハイウェイ」は去年の夏に映画化されたので、このタイトルを聞いたことのある方も多いかと思います。主人公である小学4年生の青山君が暮らしている郊外の町に、突然ペンギンたちが現われたことで、町中が大混乱。そんな中、彼はこの不思議な事件に歯科医院のお姉さんが関わっていることを知り、この謎を解明することにしました。その研究の内容はもちろんのこと、青山君のお姉さんへの想いにも注目です。個性豊かなキャラクターにクスッと笑え、読んでいくうちに謎がだんだん解けていき、想像もつかない物語のラストに惹き込まれていきます。読み終えた後に感じる衝撃と爽快感は、きっと皆さんを大満足させるでしょう!!

1H

『昨夜のカレー、明日のパン』

木血泉/河出書房新社

25歳という若さで夫を亡くしてしまった主人公テツコは、その後も実家には戻らず、夫の父と二人暮らしを続けています。そんなテツコは会社の同僚であり、彼氏でもある岩井さんに求婚されていますが、亡き夫を忘れられず、どうも気が進まない様子。ある夜、帰り道にふと立ち寄ったパン屋で、テツコは焼き立てのパンを買うことになり、食べ物に人を幸せにできる力があることに気付いたのです。それ以後テツコはいろいろなことを受け入れられるようになり、岩井さんとの再出発を決意するという物語です。この作品は2014年にNHKBSプレミアムでテレビドラマ化されました。

3H

『i』

西加奈子/ポプラ社

「この世にアイは存在しません。」この一文は作中に何度も登場してとても印象的だった。この本には世界中で起きた悲劇が記録されていて、アイはその悲劇をノートに綴っています。ペンを走らせながら自分の置かれた環境に対して罪悪感を覚え、心を痛めます。「どうしてこんなにアイは優しいのだろう、苦しまなければならないのだろう」と私も心が痛くなりました。そして読んでいて世界観が広がり、「生きること」「生かされること」について深く考えさせられました。読み始めるとその世界に没頭でき、作者の深いメッセージを受け取ることができる本です。

5H